


学校番号	216	学校名	医王山中学校	校長名	山口 将世
心の健康実践モデル校			担当者名	談議所 幸恵	

1 研究の重点と具体的な取組

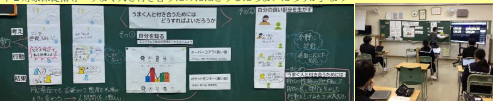
重点1 心の健康観察による児童生徒理解と個に応じた対応

①「ここタン」による心の健康観察
 前年度から1学期に活用した「心の天気」及び「健康観察」を引き継ぎ、「ここタン」を活用し心と体の健康観察を行った。
 生徒の入力時間 教員の確認時間
 朝、登校後～朝礼開始前 人力授業中にて 空き時間に職員室にて



心の健康観察を1人1台端末を活用して簡単に入力できる。教員は生徒の状況をすぐに把握し対応できる。「ここタン」では体調についても把握できる。また、相談したい先生への依頼を簡易し対応につなげることができる。

②心の健康に関する保健指導
 養護教諭による健康管理や人間関係づくりなど学年に応じた保健指導を行った。
 中2対象保健指導「うまく人と付き合うためにはどうしたらよいだろうか」より



授業の振り返りより「1人1台端末を活用し生徒が入力したシート」
 うまく人と付き合うには、自分の行動が大事なことばかりではなく、相手のことを思い出し良かった部分や考えそこなところを相手に伝えたら長く付き合えると思いました。
 自分の性格を知って自分の良さを知ることが大切だとわかった。はじめの考え方と変わって新しい考え方ができたのでよかった。
 相手の気持ちや考え、相手が必要な気持ちにならないようなどをする


導入では、ある場面にについてどんな気持ちになるかを考えた。自分を知るために自分の性格がどのタイプにあてはまるか自己分析を行い、自分の良い部分を活かすためにどうするかについて意見を話し合った。相手の気持ちを考えることや自分の性格を知ることが大切であることなどに授業を通して気付いた。

③相談活動の充実
 教職員間で連携し、発達段階に応じて迅速な対応を行った。

重点2 家庭・地域への情報発信の工夫


①保護者に対する啓発活動の推進
 心の健康観察をどのように活用しているか学校だよりやホームページ等で家庭・地域へ発信するなど充実を図った。

②学校保健委員会や学校運営協議会での情報共有
 心の健康観察に関する取組について、学校医や保護者に報告し、意見を伺った。
 学校保健委員会より 学校運営協議会より



各種便りやホームページ、懇談で情報発信しているが、「ここタン」による心の健康観察を毎日していることを把握していない保護者もいた。良い取組なのでうまく活用してほしいという意見が多かった。

③教育講演会の開催
 小学校の保護者を対象に子どもの心を理解するための教育講演会を講師としてSCをお招きし行った。



親の姿勢や心がけたいことや家庭でのコミュニケーションについて、専門的な内容や家庭での実践につなげられる内容について講演していただいた。

2 取組の検証

・R612月実施の教員アンケートでは、「1人1人の児童生徒理解に努め、個に応じた指導を行っている」「居場所づくりが工夫され、児童生徒が有感情や承認感を得られるようになっている」の肯定的回答は小中とも100%であった。また、「人と人との絆を大切に活動を実践できるように指導している」では7月と比較すると肯定的回答のうち「あてはまる」の回答が小学校では29%から75%に上昇した。

小学校教員アンケートより 小学校教員アンケートより

一人一人の児童生徒理解に努め、個に応じた支援を行っている	金沢市平均	75%	75%
居場所づくりが工夫され、児童生徒が有感情や承認感を得られるようになっている	75%	75%	75%
人と人との絆を大切に活動を実践できるように指導している	29%	75%	75%

・R612月実施の児童生徒アンケートでは、7月と比較すると肯定的回答が「学校へ行くのが楽しんだ」の項目において小学校では94%から98%に、中学校では56%から63%に上昇した。また、「安心して学校生活を送っている」の項目において中学校では78%から82%に上昇した。「学校には自分の居場所がある」の項目において小学校では89%から83%と8割は超えているがやや減少した。

小学校児童アンケートより 中学校生徒アンケートより

学校へ行くのが楽しい	安心して学校生活を送っている	学校には自分の居場所がある
小学校	小学校	小学校
94%	78%	89%
98%	82%	83%
中学校	中学校	中学校
56%	78%	89%
63%	82%	83%

・R612月実施の保護者アンケートでは、「お子様は学校が楽しそうである」の項目において7月と比較すると肯定的回答が78%から78%にやや上昇した。また、「子どもと話したり、一緒に過ごしたりする時間を多くとっている」では、88%から95%に上昇した。教育講演会後のアンケートでは「あまり聞いたことのない言葉があり、説明を聞いて教育に大変役に立つ考え方だと感じた。子どもの基盤になれるように心掛けたい」などの意見があった。

保護者アンケートより

お子様は学校が楽しそうである	子どもと話したり、一緒に過ごしたりする時間を多くとっている
78%	88%
78%	95%

3 成果と課題

①成果

- ・各種アンケートによると、教員の児童生徒理解や指導の工夫など学校の心の教育の充実が図られていることや児童生徒の学校生活への意欲向上を見取ることができた。また、家庭での子どもの行動への関心やふれあいの充実が向上していることも確認することができた。
- ・健康観察の実施では、朝入力することで、その日の学校生活を送る上での対応につなげることができる。心の健康観察を毎日続けることで、一見元気そうに見えていても、実は心は元気がない児童生徒の把握や、体調不良と心の状態が関係している児童生徒への早めの対応につなげることができた。実際の心の状態と違った入力をしている場合も考えられるが、本校は比較的素直に入力している児童生徒が多い。実際に何か問題があるときは心の状態が2以下であることが多いため、毎日の変化を参考に把握するようにしている。
- ・学年に応じた保健指導により、これまでとは違った考え方を取り入れたり、行動につながりやすくなることを身に付けさせることができた。

②課題

- ・健康観察での入力を忘れてしまう児童生徒もいるので、担任を中心に入力の声かけや早めの確認が必要。
- ・保護者や地域へ取組を発信しているが、十分な理解等につなげていない面がある。保護者への理解を深めるための手立てをさらに工夫していく必要がある。